

検討委の計画見直し回答案

一関の市民団体、支持表明



国際リニアコライダー

(ILC)を巡り、一関市の市民団体「ILC誘致を考える会」は16日、日本学

術会議が設置したILC計画の見直し案に関する検討委員会が14日に示した回答案について、支持する考えを表明した。

同会共同代表の千坂峻峰氏と原田徹郎氏が市役所で会見。回答案で、放射性物

質のトリチウム(三重水素)の処理など、環境への影響について地域住民と対話を進めることなどを指摘したことについて、千坂氏は「会として勝部修一関市長に強く要望していたことで、市長は市民と共にリスクを究明する役割を果たすべきだ」と強調した。

額の費用負担をしても科学的意義を認めて誘致したいのなら、市は明確な説明をすべきだ」と訴えた。また、同会のメンバー有

志ら7人は16日、県庁を訪れ、ILCでの実験で生じる放射性物質の扱いについて東北ILC準備室に懸念を伝え、意見交換した。

で同計画について「経費の国際分担の見通しが無い」と指摘するなど厳しい意見が並んだ。柴山氏は「同検討委で多様な分野の研究者による議論が行われさまざまな意見が出ていたことは承知している。検討委は21日にも議論を行う。文科省としては日本学術会議からの正式回答を待つて政府としての調整を進めたい」と述べた。

正式回答を待ち

政府として調整

文科相が会見

【東京支社】柴山昌彦文部科学相は16日の記者会見で、国際リニアコライダー(ILC)計画に関し、「同

計画を議論している)日本学術会議の正式回答を待ち、政府としての調整を進めたい」と語った。

日本学術会議が設置した「ILC計画の見直し案に関する検討委員会」が14日に示した文科省への回答案